



ボランタリーネイバーズ実施「かなめびと応援プロジェクト・セミナー」(2025年3月18日)より

NPOの事業にAIを活かすには(ChatGPT 編)

～生成AI活用の実践とポイント～

講師：友次 進さん

(NPO 法人デジタルライフサポーターズネット理事長)

かなめびと応援プロジェクトの一環として、「かなめびと(組織運営のコアスタッフ)」の学びの機会を提供し、「たすかりあう」関係性の構築を目指して、隔月でセミナーを開催しています。第4回セミナーでは、近年注目を集めているAI、特に生成AI「ChatGPT」の活用方法について、具体的な事例を交えながら学びを深めました。



生成AI (ChatGPT) とは？

生成AIは、文字などの入力に対して、テキストや画像、その他のメディアを生成して応答する人工知能システムの一種で ChatGPT は、OpenAI 社が提供する代表的な生成AIサービスです。

・秘書として捉える！

ChatGPT は「非常に優秀な秘書」。企画のたたき台や文章作成など、0→1 を助けてくれる存在です。

・検索との違い

検索は、人がインターネット上の情報を自ら探しますが、生成AIは、指示(プロンプト)に応じてAIが自動的に情報を収集・整理し、最適化された形で出力するため、作業の自動化が可能になります。

・導入方法

スマホ・PCから無料で利用可能です。ファイルの読み込みや出力などの機能を利用する場合は、有料プランを推奨します。

主な生成AIサービス(2025年3月10日調べ)

サービス名	提供者	スマホアプリ	利用料	備考
ChatGPT	OpenAI	○	無料/20ドル～ ※NPO法人向けプランあり	人間のような自然な文章を生成
Gemini	Google	○	無料/2,900円～	Googleサービスとの連携
Copilot	Microsoft	○	無料/3,200円～	WindowsPCとの親和性が高い
perplexity	Perplexity AI, Inc.	○	無料/20ドル～	AI検索エンジン最新情報を反映
Claude AI	Anthropic	○	無料/20ドル～	誤情報が少なく信頼性が高い
Adobe Firefly	Adobe	×	無料/9.99ドル～	商用利用可能な画像を生成
Gamma AI	Gamma Tech, Inc.	×	無料/10ドル～	テキストからプレゼン資料自動作成
Napkin AI	—	×	無料	テキストからグラフや図解を生成

Copyright 2024 NPO Digital Life Supporters. All Rights Reserved.

活用方法 (防災イベントを想定)

アイデア出し

イベント企画例:「親子向け防災イベント」のアイデアをプロンプト(指示文)で提案を依頼。ChatGPTが提案した様々なアイデアを基に話し合いを行う。

企画書作成

提案されたアイデアを基に企画書を作成。提出先(行政/協賛企業)に合わせた文調調整も可能。

予算計画・スケジュール表

10万円予算の配分提案なども自動生成。イベント日付を入力し、タイムライン自動作成。

募集文の作成(参加者/ボランティア)

SNS投稿文向けに最適化。その際に、提案依頼はどの媒体なのかを明確に伝える。対象者(例:大学生、保護者)ごとのアピール文作成。

チラシのレビュー

作成済みチラシ PDF/画像をアップロードすると、改善点をAIがフィードバック。

アンケート作成・報告書

子ども向け・簡単な質問形式の提案も可。回答をExcelで読み込ませて分析し、報告書(分析)も作成可能(※有料版推奨)。ただし、画像データの解析はできない。

★実践事例 補助金申請支援

実際に、補助金申請において以下の取り組みを行いました。

概要の把握

実際の補助金公募要項(仕様書等)をAIに読み込ませ、概要を把握させ、要項の理解、申請書・事業計画書の草案作成をサポートしてもらう。出てきた提案をアイデアとして活用する。

工夫ポイント

「しっかり理解して」「深く読み込んで」など指示を明確に。総合計画(PDF)など地域文脈の資料も読み込ませて説得力UPするような文章を作成することができる。AIからの提案を基に文章を作成。

プレゼン対策

プレゼンの章立て案や話す内容までサポート。審査員の想定質問を生成し、答えを用意することも可能。審査員がわかるようであれば、詳細を入れるとより明確になる。



ChatGPTを活用し、
一連の業務を効率化できます！

💡活用のポイントと注意点

💡活用のコツ

・プロンプト(指示文)がカギ！

丁寧かつ具体的な指示(状況の説明と、してほしいこと)を入力することで、生成される成果物の質が大きく変わる。

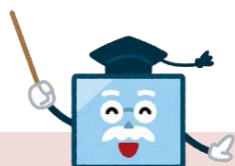
・繰り返し調整可能

「60点→100点に改善して」など、何度でもやり直す。

また、良い提案が出てきた際にはほめることも大切！

・使う側の工夫が成果を生む！

ただ使うのではなく、「何を求めているか」を明確に。



⚡注意点⚡

情報の正確性	数値・事実は人の確認が必須！ 情報の正確性は不確かなことがある。
個人情報	入力した内容は学習され、今後活用される可能性がある。個人情報、機密情報の入力には避ける。
偏見誤解	バイアスが入っている可能性があるため、複数の情報を参考にし、批判的思考を忘れずに。
最終判断	AI はあくまで補助。最終判断は人が行う。
画像利用	AI で作成された画像は著作権が発生する可能性がある。また、様々な学習から得られた生成であるため似たような画像である場合がある。広報物等では Adobe Firefly 推奨(商用利用 OK)

●有料版と無料版の違いは？

⌋仕様は日々変化しているため一概には言えませんが、無料版と有料版の主な違いは、処理できる情報量にあります。無料版では読み込めるデータに制限があり、例えば 1,000 文字を超える入力や、複雑なデータの処理には対応できない場合があります。機能に不足を感じた場合に、有料版の導入を検討するとよいでしょう。

●調査を行う事業の場合、どのように活用ができるか？

⌋有料版では、データの分析が可能です。特に、自由記述欄の要約や内容の分析を得意としています。ただし、個人情報や機密情報を送信することは避けるべきです。データを学習に使用しない設定もありますが、リスクが完全にゼロというわけではありません。

●AI を育てるコツは？

⌋ChatGPT では、自分専用の AI を作成することが可能です。たとえば、NPO に特化した AI を作りたい場合、内閣府が公開している「NPO 法人の手引き」などの資料を読み込ませることで、その分野に特化した応答が得られるようになり、特定の領域に詳しい AI を育成できます。ただし、情報にバイアスが含まれる可能性もあるため、得られた回答を鵜呑みにせず、内容を批判的に確認する姿勢も大切です。

●議事録の作成、資料の作成の際に、どのように活用ができるか？

⌋議事録などを作成する際は、「LINE WORKS AiNote」で文字起こしを行い、その内容を ChatGPT に要約してもらおうと効率的です。ただし、過剰な期待はせず、最終的には必ず人の目で内容を確認することが重要です。

●他の団体では、どのように使用しているのか？

⌋文字起こしや要約、報告書の作成提案、画像の生成、1 分間スピーチ用のシナリオ作成など、さまざまな用途で活用しています。

●最新版との違いは？

⌋主な違いは「賢さ」です。バージョンが新しくなるほど、より高度な理解力や応答能力を備えています。

●使い方のコツは？

⌋アイデア出しのツールとして活用するのも効果的です。AI が提示した文章や提案を基にして、方向性や内容を人が考えることが重要です。また、AI を活用する際には「褒めること」も大切です。人間 AI も人との対話のように接することで、よりスムーズに活用できます。

📖まとめ

★AI は NPO 業務のあらゆる場面で活用可能。

☆ChatGPT を「伴走する秘書」として使うことで、作業の効率化・質の向上が見込める。

★不安を感じたらまずは「無料版」でトライ。使い方次第で大きな助けになる！



AI は「魔法の道具」ではなく、「使い方次第」で大きな力を発揮します。人の知恵と AI の力を掛け合わせ、NPO の活動をもっと効果的・魅力的にしていきましょう😊(今回の報告は、LINE WORKS AiNote、chatGPT を活用し作成しました🖋)